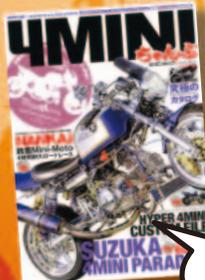


■SHOP : LUC DE BONDT
 (http://www.dax.be)
 ■PHOTO&REPORT
 Tsuyoshi Chiwa
 ■TRANSLATION
 Keizo Kagaya (KA-HA-TradingGmbH)
 ■SPECIAL THANKS
 C.F.POSH(Tokyo&Osaka)



THE
 4MINI
 WORLD
 SURPRISING
 DISCOVERY
 vol.5
 Hamme Belgium

アレッ?
 このゴリラ
 もしかして...

▼別冊の4MINIちゃんぶ11の表紙を飾ったこともある極上のゴリラカスタム。アルミの無垢材から削りだして作られた12インチホイールやキャンディーフレックのペイント、エアブレンタイプ給油口などなど、このゴリラの仕上がりに惚れ込み、はるか1万キロも離れた町から購入を決意したという。

日本からの買い付け車両も多数アリ!

ベルギーの DAX 最強SHOP

スゴく不思議な気分になった。ゼツタイにどこかで見たことのあるマシンなのだが、ココは初めて訪問するベルギーの田舎町。日本から1万キロ以上離れた町のせいか、一瞬錯覚に陥ったような感覚になった。しかしそれはホンモノだった。しかもこのゴリラ以外にも日本で製作された極上カスタムが保管され、まるで宝石のように大切に、そしてリスペクトされていた。



ボクの初めてのバイクは日本から買ったコイツなんだ

MACHINE DAX HONDA
OWNER Timothy (ティモシー・24歳)



▼高めのライザーに幅の狭い文字ハンドルを装着。ほとんどアノコ抜きしていないシートとポリウレタンと相まって、長身のティモシー君にもピッタリのポジションを作り上げている。



▲各部のメッキも素晴らしい仕上がりだが、絵柄が浮き出るキヤンディーペイントもお見事。



▲シートの裏側なのに惜しげもなくこんなペイントをしようほどこのマシンにはスキがないのです。開閉部分の仕上がりもスゴいでしょう。

ボンド氏の長男でSHOPを手伝うティモシー君。8年前、16歳のころ、日本から購入し、整備したり磨いたり、このマシンでバイクの勉強をしてきたという。随所のクロームメッキの箇所は増えていく予定だという。大西ヒートマジック製タンマフラーやGクラブ製キャッチタンク、SP武川製スーパーヘッドや乾式クラッチ、CRキャブなど豪華な装備も目を引く。

THE 4MINI WORLD SURPRISING DISCOVERY vol.5 Hamme Belgium



ファルコン製チタンマフラーだよ!

MACHINE DAX HONDA
OWNER Stijn (ステーション・20歳)

ヨニミニチャンプアタリマエデシヨ?



▲ヨーロッパの4MINI系SHOPや4MINIファンの多くが、別冊の4MINIちゃんぶをバイブルとしている。ステーションも「もちろん持っているよ〜!」ってわざわざ自宅から持ってきてくれました。

ライジングサンと命名されたこのDAX、じつはキャンディーブラッドレッドというペイントは、パールレインボーフレック入りで、見る角度によって日章旗が浮かび上がる仕上がりとなっている(写真でお見せできないのが残念)。ドイツ製ホイールをクロームメッキして装着し、CRキャブやSP武川製スーパーヘッド、ファルコン製FMRタイヤなどなど、日本製パーツがふんだんに盛り込まれている。

閑静な住宅街



▲レンガ造りの2階建てがルック・デ・ボンドのSHOP兼自宅。この建物の左隣は同じくらいのスペースを持つガレージとなっていて、写真がSHOPとなる。

▼上写真の2階は自宅なんだけど4MINIの保管庫でもある。ボンド氏が持っているDAXのフレームはペイントが完了したばかり。ミタリ一調のデザインに、日章旗が描かれており、親日的なモードもブンブン。これからカスタムを始めるという。「C.F.POSHも有名だよ〜!」と、ノボリが床に飾られてるともおしゃれでしょ〜。

▲ドイツ製のブレーンタイプ12インチホイールが個性的に目立つ。



SHOPの2階は自宅兼車の保管室。空調も行き届いたキレイな部屋で大切に保管されています。新車同様のコンディションのものや、珍しい国のモデルも多数アリ!

Part 1
激 4MINI コレクション

モンキーのUSA初代



▲グリップとレバーがホワイト、スチールウール式のエアクリナーやブロックタイヤが採用されたZ50K2 (1970年)の輸出モデル。日本からカスタム車を輸入し、アメリカからはア車も輸入しているのだ。

クリスマスモデルです



▲1986年にアメリカのクリスマス商戦用に発売されたモデル。当時は1軒のSHOPに2台しか入荷しなかったというア車。レッドのグリップやシートに合わせたタンクのSpecialという文字がカワイイのだ。

▲カワサキかと思っちゃうライムグリーンだけど、実は1972年にアメリカに初めて上陸した日本製4MINIのQA50KOというモデルだという。アメリカでは多数派となっているレジャー用モデルのため、保安部品などが付いていないのが特徴。

▶ベルギーでは1973年から1980年までモンキーも販売されていたというが、これがそのベルギー仕様。ちなみにドイツ仕様も同じスベックで販売されていたという。ウインカーがないのも特徴だ。



ヨーロッパ特有の美しい住宅街。ガレージ風の大きなシャッターが開くと、中には極上のDAXカスタムが数台保管されていた。ドイツのビンテージコレクターから始まったヨーロッパの4MINI取材は、行く先々が驚きの連続で、それぞれ個性や方向性が明確だったが、このSHOPもDAXのカスタマイズに特化しており、そのクオリティも取材班を驚かせるものだった。

ブリュッセルの北西、40kmほどに位置するHamme(ハンマ)。のどかな田舎町の住宅街にLUC DE BOND T(ルック・デ・ボンド)がある。SHOPの名称はオーナーのフルネーム。自称のニックネームは「ボンド」にかけて「007」だ。

このSHOPは1930年にボンド氏の祖父が自転車やペスパなどを販売するSHOPとして開業した。ベルギーでは1973年くらいから7年間ほどDAXとモンキーが販売されていたというが、ボンド氏はそれらの販売が終了したあとの1986年ころからDAXのカスタムを真剣に開始し、1990年にSHOPを増築して現在に至る。国内では絶版となったDAXのカスタムを始め、たことにより、このSHOPは大きくなっていったという経緯がある。

「好きなブランドはSP武川と水本レーシング」という親日派のボンド氏が、我々を驚かせたのは別冊4MINI

長男のティモシー(24歳)と次男のステイブ(22歳)がSHOPを手伝い、仲の良い家族で4MINIを楽しくながら販売している。ただでさえゆんぐりと時間の流れるヨーロッパで、4MINIをコツコツいじりながら生活が成り立つという賢沢。世界中で愛される4MINIは、1万キロ以上離れた海外でもライフスタイルを形成するファクターとなり、無限の価値を創出しているのだ。

発注してから1年も待たなくてはならないという極上のメッキ処理も我々の目を引いた。ホイール前後で約300€(約4万8000円)というプライスだが、深みのある輝きが比類なき存在感を放っており、もちろん彼らの自慢のポイントでもある。

チャンプの表紙も飾ったことがあるゴリラや、日本でもトップクラスのDAXカスタムをベルギーに輸入していることだった。なんと今までに日本から購入した4MINIは40台にもなるというから、いかに日本のカスタム車に惚れこんでいるかがわかるだろう。

日本のカスタムに惚れこんでいることは、日本から購入したDAXカスタムを見ても明らかだった。日本で施されたカスタムの基本コンセプトをリスペクトし、踏襲しつつ、このSHOPならではのオリジナリティをプラスするという手法なのだ。



これから作るんだ〜!

昨年の2月に日本から購入したというDAXカスタム。見覚えのある読者も多いと思うが、これまた日本でも超注目された極上のDAXカスタム。日本から購入した後に水本レーシング製マフラーに変更した以外は、ほとんど購入した状態を保っている。ちなみにスティーブンはボンド氏の次男で、SHOPを手伝ってます。

MACHINE **DAX HONDA**
OWNER **Steven** (スティーブン・22歳)

昨年2月に
買いました



ショールームは
こんな感じです

▼ショールームにはレア車のデッドストックやカスタム車などがピシッと並んでいる。



で、裏手は
ご自宅



◀ショールーム裏手にあるボンドさんのご自宅。なあんかゴージャスでしょ〜？

▼ワンオフで製作された4JホイールやOKD製265mmリヤンヨックなど、日本でも大注目のアイテムが、日本でカスタムされたまま保たれている。



激レア Part 2
4MINI コレクション
レア車がズラリ!



▲手前からモンキー、モンキー50周年記念モデル、Z50M(1967年)、モンキーZ(1960年)。すべて未走行のデッドストックなのだ。

48年前のデッドストック
▶海外向けに生産されたというモンキーの初代。タンクやシートなどはスポーツカブのものが流用されていてカワイイよね。

Honda50です



▲スーパーカブも4MINIです。レックシールドにはHonda50というエンブレムが付いており、タンデムできる長いシートが特徴的。手前はモンキーバハ、さらに手前は懐かしのモンキーアフリカキット装着車です!

**新発見
パーツも
アリ!**

一声かければ4MINIが100台は集まるというドイツ北部のSHOPを直撃! オリジナルパーツの販売なども手がける大御所SHOPでは、プチツーリングやバーベキューなど、ヨーロッパの4MINIライフを体験レポートします。

**次号
予告**



次号モトチャンプ5月号は4月5日(土)発売です!

THE
4MINI
WORLD
SURPRISING
DISCOVERY
vol.5
Hamme Belgium

これは
彼女のために
作った
スペシャル
なんだ

MACHINE **DAX HONDA**
OWNER **Timothy** (ティモシー・24歳)



700€(約11万円)かけて花ガラのペイントが施されたDAXは彼女のために製作したマシン。「速すぎると危ないから」と、キャブレターを小型に変更したり、パワーを控えめにしているのも特徴。Gクラフト製4J12インチホイールやファルコン製FMRタイヤが自慢のポイント。

日本から買った
SHOPの
カンバン車

MACHINE **Gorilla HONDA**
OWNER **LUC DE BONDT** (ショップ所有)



SHOPの中でも一段高い台に展示されているのは、日本のトップチューナーが仕上げた極上のゴリラ。別冊4MINIチャンプの表紙も飾ったクオリティーは、世界中どこに行ってもため息が聞こえるほど見事。輸入した状態をほぼ保っていることが、「日本のカスタムをリスペクトしてます!」って言うボンド氏の言葉を裏付ける。

エンブレムや
スイングアームは
当時の
オリジナルだよ

MACHINE **DAX HONDA**
OWNER **Timothy** (ティモシー・24歳)



フジヤマ
どうです?

MACHINE **Gorilla HONDA**
OWNER **LUC DE BONDT** (ショップ所有)

1969年式のDAX70。50用より長いシートやタンデムステップが装着されたスイングアーム、前後ホイールなどは当時のオリジナル形状を保ち、エンブレムも美しい状態で保たれている。エンジンはナイス110系が搭載されており142cc化。デイトナ製DOHCヘッドやPOSH製アウターローターなども装備。

ファルコン製の前後扁平タイヤやアルミホイール、SP武川製のエンジンパーツ、OVERレーシング製マフラー、Gクラフト製スイングアームなど、日本製パーツがふんだんに盛り込まれたゴリラ。日章旗と富士山を合わせたデザインのペイントがお気に入り。